



扇小だより

考える子 思いやりのある子 強い子

令和6年度 第33号

開校50年目

11月8日 児童数753名
入間市立扇小学校

扇っ子の最適な学びを創る

学校長 村越 新

本日、入間市教育委員会の委嘱をいただいた校内研修『**楽しい授業**』の展開（算数を中心に）の研究発表を開催いたします。

本研修では、子供の**最適な学び**を創造するために、職員が本気で考え、学び合い、そして実践を重ねてきました。新たな挑戦にも挑んできました。日本の教育に長く根付いていた教師主体の一斉指導を見直し、学習者である子供にとっての最適な学びを探ってきました。

研修の過程で、**学習者の視点**に立ちいくつかの確認をしてきました。

「授業」とは、子供が学習活動を行う時間である。

「良い授業」とは、学習活動が長い授業である。

「良い指導」とは、学習活動を長く（最低 25 分間）設定する指導である。

「学習活動」とは、以下の3つの活動である。

- 1) 考えを書く時間（視写は含まない）
- 2) 学び合う時間（グループなら4人まで、ペア、自由移動）
- 3) 話し合う時間（次の3つを満たす活動）

＊発表者は子供に向かって話す（先生ではない）

＊発言の反応を教師が全体に確認する

＊教師は決してオウム返しをしない

「自力」とは、一人で行うことだけでなく、自分で支援を求めることである。

＊求める支援・・・教科書、教材、P C、友達

子供たちが全員前を向き、先生の話の聞いたり、先生の質問に分かる子だけが答えたりする時間は激減しました。授業のほとんどの時間、子供たちは学び合い、自力で取り組み、問題を解決するようになりました。

50 年間歌われてきた本校の校歌の歌詞、

♪ 張り切って楽しく勉強しよう

大好きな 大好きな この学校で

それは 扇 扇 扇小学校 ♪

にピッタリの学校に、確実に近づいたと実感しています。



ジャンプ課題

子供たちをさらに伸ばすために、子供たちがさらなる最適な学びを創り上げていくために、質の高い問題が必要だと分かりました。

いわゆる「ジャンプ課題」が必要なのです。

従前の授業で取り上げていたような問題では、子供たちの多くは物足りないのです。そこで、本年度は「ジャンプ課題」について、3つのレベルを設定して取り組んでいます。

レベル1 教科書にない問題

レベル2 答えが一つに決まらない問題

レベル3 探求が続く問題

子供たちが学びを創るような良質な問題をできるだけ我々も生み出していきたいと思い、授業実践しています。

昨年度の卒業式で卒業生が歌った『正解』（RADWIMPS、作詞：野田洋次郎）には

なに一つ見えない 僕らの未来だから

答えがすでにある 問いなんかに用などはない

という歌詞があります。子供たちの思いを代弁しているのだと考えます。

7月に実施した調査では、以下のような結果が出ました。

Q ジャンプ課題についてあてはまるものは、どれですか。

選択1	「たくさん挑戦したい」	低学年 59.2%	中高学年 41.7%
	「たまに挑戦したい」	低学年 20.4%	中高学年 35.5%
	「がんばりたい」	低学年 14.7%	中高学年 18.5%
	「やりたくない」	低学年 5.7%	中高学年 4.4%
選択2	「難しくて楽しい」	低学年 48.8%	中高学年 63.5%
	「簡単で楽しい」	低学年 36.5%	中高学年 17.8%
	「難しくて楽しくない」	低学年 9.5%	中高学年 16.4%
	「簡単で楽しくない」	低学年 5.2%	中高学年 2.3%

多くの子の意見を総合すると「ジャンプ問題は難しいけど楽しいので、たくさん挑戦したい」ということだと捉えています。

本校の校歌には、♪がんばって負けずに勉強しよう♪という歌詞もあります。扇っ子には、「難しいからやりたくない」「難しいからできない」「できそうもないからあきらめる」という言葉は似合いません。扇っ子はこれからも、張り切って楽しく、がんばって負けずに、肩くんで仲良く学んでいきます。